

宮崎恭子先生 : New Engl J Med. 2010 E-pub

“Real time インスリンポンプの威力！”

Effectiveness of Sensor-Augmented Insulin-Pump Therapy in Type 1 Diabetes-the STAR 3 study

【背景】日本では、携帯電話 A/O との周波数の問題で、なかなか認可されない Sensor-Augmented real time CSII ポンプ。4 月から日本でも保健適応になった持続血糖モニター CGMS と CSII を組み合わせて、24 時間の血糖測定結果にあわせて、高血糖時は必要インスリン量を警告、低血糖時は基礎インスリン注入を自動的に止めるなどの画期的なシステムです。

【方法】今回、7-70 歳の強化インスリン中の 1 型糖尿病患者 485 名を、それまでの MDI (multiple daily injection; n=241) と pump (real-time CSII; n=244) に割付け、HbA1c の変化を検討されました。

【結果】MDI 群では HbA1c は、8.3% → 1 年後 8.1% であったが、pump 群では、8.3% → 1 年後 7.5% まで減少、19 歳以上では MDI 群 → 1 年後 7.9%、pump 群 → 1 年後 7.3%、19 歳未満では、MDI 群 → 1 年後 8.5%、pump 群 → 1 年後 7.9% と有意に pump 群の改善を認めた。目標 HbA1c レベルの到達率も、1 年後には pump 群では、28% と、MDI 群 7% に比し、有意に目標達成率が高かった。また、低血糖、重症低血糖の頻度も pump 群では低く、DKA の頻度には差を認めなかった。

【結論】治療効果は、A1c を -0.6% 下げ、低血糖が少ない画期的な Real time インスリンポンプシステム。日本上陸が待たれます。がんばれ、ソフトバ〇ク！（文責 阿比留）

